

官報

號外

昭和九年三月十七日

○第六十五回 帝國議會 貴族院議事速記録第二十七號

昭和九年三月十六日(金曜日)午前十時二十五分開議

議事日程 第二十七號

昭和九年三月十六日

午前十時開議

第一 衆議院議員選舉法中改正法律案

(政府提出、衆議院送付) 第一讀會

第二 昭和九年度一般會計歲出ノ財源

ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 昭和七年法律第一號中改正法律

案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 滿洲事件ニ關スル一時賜金トシ

テ交付スル公債發行ニ關スル法律案

(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 大藏省預金部特別會計法中改正

法律案(政府提出、衆議院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 結核豫防國策樹立ニ關スル建議

案(金杉英五郎君發議)

會議

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ諸般ノ

報告ヲ致サセマス

(瀬古書記官朗讀)

一昨十四日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府

提出案ハ即日裁可ヲ表請シ又可決ノ旨ヲ衆

議院ニ通知セリ

昭和九年度歲入歲出總豫算案並昭和九年

度各特別會計歲入歲出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲ス

ヲ要スル件

同日本院ニ於テ採擇スルコトヲ議決シタル

馬淵川改修ノ請願外三十三件ノ請願ハ各、

意見書ヲ附シ即日之ヲ政府ニ送付セリ

昨十五日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セ

リ

昭和九年度歲入歲出總豫算追加案(第一

號)

昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加

案(特第一號)

豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲ス

ヲ要スル件(追第一號)

衆議院議員選舉法中改正法律案

同日委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

健康保險法中改正法律案可決報告書

癩兵院法中改正法律案可決報告書

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ會議ヲ

開キマス、關直彦君ヨリ病氣ニ付キ、會期

中ノ請暇ノ申出ガゴザイマシタ、許可スル

コトニ御異存ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異存ナイト

認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 昨十五日若尾

璋八君ヨリ病氣ニ付キ、河川法中改正法律

案特別委員ノ辭任ノ申出ガゴザイマシタ、

許可スルコトニ御異存ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異存ナイト

認メマス、其補闕ト致シマシテ水野甚次郎

君ヲ指名イタシマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 是ヨリ議事日

程ニ移リマス、日程第一、衆議院議員選舉

法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、

第一讀會、山本内務大臣

衆議院議員選舉法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因

テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和九年三月十五日

衆議院議長 秋田 清

貴族院議長公爵近衛文麿殿

(小字及ハ衆議院ノ修正ナリ)

衆議院議員選舉法中改正法律案

衆議院議員選舉法中左ノ通改正ス

第二條第二項中「特別ノ事情」ヲ「必要」ニ

改ム

第三條第二項中「數開票區ヲ設クルコト

ヲ得」ヲ「數開票區ヲ設ケ又ハ數郡市ノ區

域ヲ合セテ一開票區ヲ設クルコトヲ得」

ニ改ム

第七條第二項中「戰時若ハ事變ニ際シ」ノ

下ニ「又ハ兵役法第五十五條第二項ノ規

定(志願ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者

ニ付テハ之ニ該當スル勅令ノ規定ヲ含ム)

ニ依リ」ヲ加フ

第十二條第一項中「一年以上」ヲ「六月以

上」ニ、同條第二項中「前項」ヲ「第一項」ニ

改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

選舉人ノ年齡ハ選舉人名簿確定ノ期日

ニ依リ之ヲ算定ス

第二十四條第一項中「選舉ノ期日ノ前日

迄」ヲ「選舉ノ期日前二日迄」ニ改ム

第四十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ場合ニ依リ總テノ投票函ノ送致ヲ

受ケタル日其ノ手續ヲ行フコトヲ得

第四十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

開票管理者ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ

開票立會人ト共ニ投票ヲ點檢スベシ

第五十五條 削除

第六十七條第三項中「選舉ノ期日ノ前日

迄」ヲ「選舉ノ期日前二日迄」ニ改ム

第六十九條第五項中「其ノ第七十四條ノ

規定ニ依ル當選承諾届出期限前ナル場合

ニ於テハ前項ノ例ニ依リ其ノ届出期限經

過後ナル場合ニ於テハ」ヲ「其ノ選舉ノ期

日ヨリ一年以内ナル場合ニ於テハ前項ノ

例ニ依リ其ノ選舉ノ期日ヨリ一年經過後ナル場合ニ於テハ」ニ改ム

第七十五條第一項中「第七十九條第六項」ヲ「第七十九條第八項」ニ、同條第二項中

「第九章」ヲ「第八十一條又ハ第八十三條」ニ、同條第三項中「第九章」ヲ「第八十一條又ハ第八十三條」ニ「第百四十三條」ヲ

「第八十六條第二項若ハ第百四十三條」ニ改ム

第七十九條第三項中「第七十四條ノ規定ニ依ル當選承諾届出ノ期限前ニ於テ」ヲ

「選舉ノ期日ヨリ一年以内ニ」ニ、其ノ期限經過後ニ於テ」ヲ「選舉ノ期日ヨリ一年經過後ニ於テ」ニ改メ同條第五項ノ次ニ

左ノ二項ヲ加フ

議員ノ關員ノ數同一選舉區ニ於テ二人ニ達セザルモ其ノ選舉區ニ於テ第七十五條ノ選舉ノ行ヘル場合ニ於テハ第一項及前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ選舉ト

同時ニ補選選舉ヲ行フ但シ第七十五條ノ規定ニ依ル選舉ノ期日ノ告示アリタル後地方長官第二項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ補選選舉ノ期日ハ第七十五條ノ選舉ノ期日ニ依ル

第八十四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

百十二條乃至ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

檢事ハ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ニ該ル事件ノ被告人ガ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉運動ヲ主宰シタル者

選舉事務長ノ事務ヲ執リタル者

ル者

ナルニ因リ第百三十六條ノ規定ニ依リ當選ヲ無効ナリト認ムルトキハ公訴ニ附帶シ當選人ヲ被告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十五條中「本章」ヲ「第八十一條、第八十三條又ハ前條第一項」ニ改ム

第八十六條第一項中「本章」ヲ「第八十一條又ハ第八十三條」ニ、同條第二項中「本章」ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルト

キハ大審院長ハ」ヲ「第八十一條、第八十三條若ハ第八十四條第一項」ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルトキ又ハ第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決確定シ効力ヲ生ジタルトキハ裁判所ノ長ハ」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第八十四條第一項。若ハ第二項ニ依ル訴訟ニ付判決アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決確定シ効力ヲ生ジタルトキハ裁判所ノ長ハ」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

ニ付判決アリタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付判決確定シ効力ヲ生ジタルトキハ裁判所ノ長ハ」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

内務大臣及關係地方長官ニ通知スベシ

第八十七條第一項中「本章」ヲ「第八十一條、第八十三條又ハ第八十四條第一項」ニ改ム

第八十九條第一項中「選舉事務員」ヲ「選舉運動ノ爲使用スル勞務者」ニ改メ同條第二項及第三項中「又ハ選舉事務員」竝ニ

同條第四項中「若ハ選舉事務員」ヲ削ル

第九十條第一項中「七箇所ヲ超ユルコトヲ得ス」ヲ「一箇所ニ限ル」ニ改メ同條第二項及第三項ヲ削ル

第九十三條 選舉委員ハ議員候補者一人ニ付二十人ヲ超ユルコトヲ得ズ其ノ異動アリタル場合ト雖モ通ジテ三十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九十四條第二項及第三項ノ規定ハ選舉委員選舉ノ一部無効ト爲リ更ニ選舉ヲ行フニ關シ之ヲ準用ス

ヲ行フ場合ニ於テハ選舉委員ハ前項ノ規定ニ依ル定數ヲ超エザル範圍内ニ於テ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ定メタル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)前項ノ規定ニ依リ選舉委員ノ數ヲ定メタル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ告示アリタル後直ニ之ヲ告示スベシ

第九十三條ノ二 第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任スル勞務者ハ議員候補者一人一日ニ付二十人ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九十條 選舉事務長又ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給事務員ヲ又ハ選舉委員ニ一演説又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ又ハ旅費、宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得前條第一項但書及第二項ノ規定爲スニ亦同シ」ヲ「前條第一項但書ノ規定ニ改メ同條第三項中「又ハ選舉事務員」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉運動ノ爲勞務者ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ勞務者ノ解任ヲ命ズベシ

第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ選舉演説會ニ出演スルハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ拘ラズ議員候補者ノ屬スル政事上ノ結社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ演説ニ依ル選舉運動ヲ爲シ又ハ第百四十條第一項ノ通常郵便物ニ推薦狀ノ同封若ハ登載ヲ受タルコトヲ得

第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條 選舉事務長又ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給事務員ヲ又ハ選舉委員ニ一演説又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ又ハ旅費、宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得前條第一項但書及第二項ノ規定爲スニ亦同シ」ヲ「前條第一項但書ノ規定ニ改メ同條第三項中「又ハ選舉事務員」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉運動ノ爲勞務者ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ勞務者ノ解任ヲ命ズベシ

第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ選舉演説會ニ出演スルハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ拘ラズ議員候補者ノ屬スル政事上ノ結社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ演説ニ依ル選舉運動ヲ爲シ又ハ第百四十條第一項ノ通常郵便物ニ推薦狀ノ同封若ハ登載ヲ受タルコトヲ得

第八十九條第一項ノ規定ニ依リ選任セラレタル勞務者ニ非ザレバ選舉運動ノ爲勞務ヲ提供スルコトヲ得ズ但シ議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條 選舉事務長又ハ選舉委員ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給事務員ヲ又ハ選舉委員ニ一演説又ハ推薦狀ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ又ハ旅費、宿泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得前條第一項但書及第二項ノ規定爲スニ亦同シ」ヲ「前條第一項但書ノ規定ニ改メ同條第三項中「又ハ選舉事務員」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前條ノ規定ニ依ル定數ヲ超エテ選舉運動ノ爲勞務者ノ選任アリト認ムルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ直ニ其ノ超過シタル數ノ勞務者ノ解任ヲ命ズベシ

第九十五條ノ二 選舉運動ハ第六十七條第一項乃至第三項ノ届出アリタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十六條 議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員ニ非ザレバ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ズ但シ議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ選舉演説會ニ出演スルハ此ノ限ニ在ラズ

ニ依リ選舉運動ヲ爲ス者其ノ運動ヲ爲スニ
定ニ依リ選舉演說會ニ出演スル者其ノ出
演ヲ爲スニ付亦同ジニ改メ司條第二項
ヲ削ル

ヲ削ル

第九十八條ノ二 何人ト雖モ第四百十條

第四項ノ文書ヲ發行スル區域ニ關シテ

ハ演說會告知ノ爲ニスル文書ヲ除クノ

外選舉運動ノ爲文書圖畫ヲ頒布スルコ

トヲ得ズ但シ第四百十條第一項ノ規定

ニ依リ通常郵便物ヲ差出ス場合ハ此ノ

限ニ在ラス

第九十八條ノ三 選舉演說會ニ出演シ得ベキ

者ハ一ノ演說會ニ付四人ヲ超ユルコトヲ得

ズ議員候補者又ハ其ノ代理者出演セザルト

キハ三人ヲ超ユルコトヲ得ズ

第九十九條第一項中「選舉委員又ハ選舉

事務員」ヲ「又ハ選舉委員」ニ改ム

第一百條ノ二 內務大臣ハ選舉ノ期日後ニ

於テ當選又ハ落選ニ關シ選舉人ニ挨拶

スルノ目的ヲ以テ爲ス行爲ニ關シ命令

ヲ以テ制限ヲ設クルコトヲ得

第一百一條第一項中「選舉委員又ハ選舉事

務員」ヲ「又ハ選舉委員」ニ改メ同條第二

項ヲ左ノ如ク改ム

議員候補者、選舉事務長又ハ選舉委員

ニ非ザル者ハ選舉運動ノ費用ヲ支出ス

ルコトヲ得ズ但シ第九十六條第一項但

書ノ規定ニ依リ選舉演說會ニ出演スル

者ハ選舉事務長ノ文書ニ依リ承諾ヲ得

テ其ノ出演ノ爲ニ要スル費用ヲ支出ス

ルコトヲ妨グズ

前項ノ規定ニ拘ラズ政事上ノ結社ハ第九

十六條第二項ノ規定ニ依リ選舉運動ノ費

用ヲ支出スルコトヲ得

第二百一條第一項第一號及第二號中「四十

錢」ヲ「二十錢」ニ改ム

第二百四條第三號中「又ハ選舉事務員」ヲ削

リ同條第四號中「選舉委員又ハ選舉事務

員」ヲ「又ハ選舉委員」ニ改ム

第二百九條中「選舉事務員」ヲ「選舉運動ノ

爲使用スル勞務者」ニ改ム

第一百十二條中「二年以下」ヲ「三年以下」ニ

「千圓以下」ヲ「二千圓以下」ニ改メ同條第

五號ヲ第六號トシ同條第四號ノ次ニ左ノ

一號ヲ加フ

五 第一號乃至第三號ニ掲グル行爲ヲ

爲サシムル目的ヲ以テ選舉運動者ニ

對シ金錢若ハ物品ノ交付、交付ノ申

込若ハ約束ヲ爲シ又ハ選舉運動者其

ノ交付ヲ受ケ若ハ要求シ若ハ其ノ申

込ヲ承諾シタルトキ

第一百十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該

選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ

四年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以

下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府

縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタル

トキ亦同ジ

第一百十二條ノ二 左ノ各號ニ掲グル行爲

ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁

錮ニ處ス

一 財産上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議

員候補者ノ爲多數ノ選舉人又ハ選舉

運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至

第三號、第五號又ハ第六號ニ掲グル

行爲ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキ

二 財産上ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ議

員候補者ノ爲多數ノ選舉人又ハ選舉

運動者ニ對シ前條第一項第一號乃至

第三號、第五號又ハ第六號ニ掲グル

行爲ヲ爲スコトヲ請負ヒ若ハ請負ハ

シメ又ハ其ノ申込ヲ爲シタルトキ

前條第一項第一號乃至第三號、第五號

又ハ第六號ノ罪ヲ犯シタル者常習者ナ

ルトキ亦前項ニ同ジ

第一百十三條中「三年以下」ヲ「四年以下」ニ

「二千圓以下」ヲ「三千圓以下」ニ、同條第

一號及第二號中「前條」ヲ「第一百十二條第

一項」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

選舉事務ニ關係アル官吏又ハ吏員當該

選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ

五年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ四千圓以

下ノ罰金ニ處ス警察官吏其ノ關係道府

縣内ノ選舉ニ關シ前項ノ罪ヲ犯シタル

トキ亦同ジ

第一百十四條中「前二條」ヲ「前三條」ニ、收

受シタル利益ヲ「收受シ又ハ交付ヲ受ケ

タル利益」ニ改ム

第一百十五條中「三年以下」ヲ「四年以下」ニ、

「二千圓以下」ヲ「三千圓以下」ニ改ム

第一百十六條第一項ヲ左ノ如ク改メ同條第

二項中「三月以下」ヲ「六月以下」ニ、百圓

以下」ヲ「三百圓以下」ニ改ム

選舉ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職

務ノ執行ヲ怠リ又ハ正當ノ事由ナクシ

テ議員候補者、選舉事務長若ハ選舉委員

ニ追隨シ、其ノ居宅若ハ選舉事務所ニ

立入ル等其ノ職權ヲ濫用シテ選舉ノ自

由ヲ妨害シタルトキハ四年以下ノ禁錮

ニ處ス

第一百二十五條中「第一百十二條」ヲ「第二十

二條乃至」ニ改ム

第一百二十九條中「第九十六條若ハ第九十

八條」ヲ「第九十五條ノ二、第九十六條第

一項、第九十八條若ハ第九十八條ノ二」ニ

改ム

第一百三十條第一項中「第九十條第一項第

二項」ヲ「第九十條」ニ改メ同條第二項ヲ

左ノ如ク改ム

第九十三條第一項若ハ第二項ノ規定ニ

依リ定數ヲ超エテ選舉委員ノ選任ヲ爲

シタル者、第九十三條ノ二ノ規定ニ依

ル定數ヲ超エテ選舉運動ノ爲使用スル

勞務者ノ選任ヲ爲シタル者又ハ第九十

六條第二項ノ規定ニ違反シタル者亦

前項ニ同ジ

第一百三十三條中「第一百一條第一項但書」ノ

下ニ「若ハ同條第二項但書」ヲ加フ

第一百三十六條 當選人其ノ選舉ニ關シ本

章ニ掲グル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル

トキハ其ノ當選ヲ無効トス選舉事務

長又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉事務長ノ事務ヲ執リタル者
選舉運動ヲ主宰シタル者第百十二條乃至第百十三條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキ亦同ジ但シ選舉事務長ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選舉事務長ノ選任及監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉事務長ノ事務ヲ執リタル者ガ刑ニ處セラレタル場合ニ於テ當選人ガ選舉事務長ニ非ズシテ事實上選舉事務長ノ事務ヲ執リタル者ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十七條第一項中「本章ニ掲グル罪ノ下第百三十七條」本章ニ掲グル罪(第百三十三條及第百三十一條ノ罪ヲ除ク)ヲ犯シ加ヘ同條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム
シ刑ニ處セラレタル者ハ左ノ各號ニ掲グル期間衆議院議員及選舉ニ付本章ノ規定ヲ準用スル議會ノ議員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セズ
一 罰金ノ刑ニ處セラレタル場合ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後五年間
二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間及其ノ後選舉權ニ付テハ五年間、被選舉權ニ付テハ十年間但シ刑ノ執行ノ免除ニ因ラズシテ刑ノ執行ヲ受

クルコトナキニ至ルトキ又ハ刑ノ時効ニ因リ刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ルトキハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間第百十二條乃至第百十三條ノ罪又ハ此等ノ規定ノ準用ニ依ル罪ニ付刑ニ處セラレタル者ニシテ更ニ第百十二條乃至第百十三條ノ罪ニ付刑ニ處セラルル者ニ在リテハ前項ノ五年間ハ之ヲ十年間トシ同項ノ十年間ハ之ヲ十五年間トス
裁判所ハ情狀ニ因リ刑ノ言渡ト同時ニ第二項ニ規定スル者ニ對シ選舉權ニ付同選舉權及被選舉權ヲ有セザル旨ノ規定ヲ適用セズ若ハ其ノ期間ヲ短縮スル旨ノ宣告ヲ爲シ又ハ前項ニ規定スル者ニ對シ同項ノ十年間ヲ短縮スル旨ノ宣告ヲ爲スコトヲ得
前三項ノ規定ハ第六條第五號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セズ
第百三十八條 第百十二條第二項、第百十二條ノ二、第百十三條第二項、第百十六條第一項並ニ第百二十七條第三項及第四項ノ罪ノ時効ハ二年ヲ經過スルニ因リテ完成ス
第百三十九條 第百十二條第一項、第百十三條第一項及第百十五條ノ罪ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス但シ犯人逃亡シタルトキハ其ノ期間ハ二年トス
前二項ニ掲グル罪以外ノ本章ノ罪ノ時効ハ六月ヲ經過スルニ因リテ完成ス但シ犯人逃亡シタルトキハ其ノ期間ハ一年トス

人逃亡シタルトキハ其ノ期間ハ一年トス
第百四十條第一項中「推薦届出者」ヲ「選舉事務長」ニ改メ同條ニ左ノ二項ヲ加フ
前項ノ營造物ノ管理者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ演說會開催ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スベシ
地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ議員候補者ノ政見等ヲ掲載シタル文書ヲ發行スベシ
第百四十一條 第十六條、第八十一條、第八十三條又ハ第八十四條第一項。ノ規定ニ依ル訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外民事訴訟ノ例ニ依ル
第百四十一條ノ二 第八十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付テハ刑事訴訟法中第五百七十二條第二號第三號第五號乃至第八號第十號乃至第十三號、第五百七十四條、第五百八十二條、第五百八十八條、第五百八十九條、第五百九十一條、第六百五條乃至第六百十條及第六百十二條ノ規定ヲ除クノ外私訴ニ關スル規定ヲ準用ス但シ同法第五百七十六條中民事訴訟法トアルハ刑事訴訟法トシ民事部トアルハ刑事部トス
第百四十四條第二項ノ規定ニ依ル訴訟ニ付當選無効ノ判決確定スト雖モ其ノ判決ハ公訴ニ付有罪ノ判決確定スルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ
第百四十一條ノ三 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラ

ズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ
第百四十三條中「第百十二條若ハ」ヲ「第百十二條乃至」ニ改ム
第百四十五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ第十二條ノ規定ノ適用ニ付テハ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ市町村内ニ住居ヲ有スル者トアルハ其ノ日迄引續キ六月以上其ノ市内ニ住居ヲ有シ且其ノ日ニ於テ其ノ區内ニ住居ヲ有スル者トス
第百五十條中「新知郡、得撫郡及色丹郡」ヲ「新知郡及得撫郡」ニ改ム
附則
本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ第十八條ノ規定ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ總選舉ノ期日ヲ定ムルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル總選舉ニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十二條、第十三條、第十五條又ハ第十七條ノ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定迄其ノ效力ヲ有ス
第百三十七條第二項ノ規定ハ第百十二條乃至第百十三條ノ改正規定ニ依リ又ハ此等ノ規定ノ準用ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ更ニ第百十二條乃至第百十三條ノ規定ニ依リ刑ニ處セラルル者ニ之ヲ適用ス
(國務大臣男爵山本達雄君演壇ニ登ル)
○國務大臣(男爵山本達雄君) 茲ニ衆議院議員選舉法中改正法律案ヲ提出スルニ當リ

茲ニ衆議院議員選舉法中改正法律案ヲ提出スルニ當リ

マシテ、提案ノ趣旨竝ニ改正案中ノ主要事項ニ付テ御説明ヲ申上ゲマス、政府ハ選舉ニ關スル多年ノ弊癥ヲ交際シ、其自由ト公正トヲ圖ルコトガ我國今日ノ情勢ニ鑑ミ、且ツハ我國憲政ノ前途ノ爲ニ極メテ緊要ナルコトヲ考ヘマシテ、組閣勿々選舉法ノ改正ニ著手イタシ、法制審議會ノ審議ヲ煩ハシマシタ上、其一部ノ答申ヲ得テ、昨春第六十四回帝國議會ニ之ガ改正案ヲ提出イタシタノデアリマス、其改正案ハ成立ニ至ラズシテ止ンダノデアリマス、爾來政府ハ引續キ法制審議會ニ對シ、審議ノ終ラザル事項ニ付テ更ニ其意見ヲ徵スルト共ニ、一面各般ノ事情ヲ綜合考察シ、入念ナル調査研究ヲ重ネマシタル結果、茲ニ本案ノ如キ衆議院議員選舉法中改正法律案ヲ得ルニ至ツタノデアリマス、改正法律案ノ内容ハ相當廣汎ニ互ツテ居リマスガ、其一半ハ昨年提案ノ改正案中ニ含マレテ居ル項目デアリマシテ、今回ハ以上ノ外、新ニ所謂選舉公營ニ關スル項目ヲ加ヘマシテ、本改正案ヲ構成イタシマシタノデアリマス、即チ先ヅ昨年提出イタシマシタル改正案中ノ諸項目ハ、今回ノ改正案ニ於テモ、大體其儘採用イタシマシタノデアリマシテ、今其主要ナモノニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマスナラバ、第一ハ、議員選舉ノ方法ニ付キ或範圍ノ改正ヲ行フコトデアリマシテ、即チ一、選舉權行使ノ便宜ヲ圖ル爲メ容易ニ投票所ヲ増設シ得ルノ趣意ヲ注文ニ加ヘマスルコト、二、選舉人名簿ニ登錄セラルルガ爲ニ

必要ナ住居ノ期間ヲ六箇月ニ短縮シ、又選舉人名簿ニ登錄スベキ選舉人ノ年齡ハ、之ヲ名簿確定ノ期日ニ依ツテ算定スルコトニ改メルコト、是ハ實質的ニ選舉權ノ要件ヲ備ヘタ者ニハ、成ルベク多ク權利ヲ行使スルコトヲ得セシムル趣意ニ出デタノデアリマス、三、開票手續ニ於テハ、投票ノ秘密ヲ確保スル爲メ、投票區別開票ノ主義ヲ改メテ、所謂混同開票主義ニ依ルコト、四、議員ノ補闕ニ關シマシテハ、成ルベク議員ノ闕員ヲ少ナカラシムル爲メ、選舉ノ期日ヨリ一年以内ニ議員又ハ當選人ニ闕員ヲ生ジタル時ハ、直ニ其次點者ヲ繰上ゲテ當選人ト定ムルト共ニ、議員ノ闕員ノ數ガ同一選舉區ニ於テ二人ニ達シマセズデモ、若シ其選舉區ニ於テ再選舉ガ行ハレマス場合ニハ、之ニ併セテ補闕選舉ヲ行フコトスルコト、第二ハ、選舉運動費用ノ減少ヲ圖ル爲メ、選舉運動ノ取締ニ關スル規定ヲ嚴重ニスルコトデアリマシテ、即チ一、法定ノ選舉運動者ハ選舉事務長ト選舉委員ノミトシ、且ツ選舉委員ノ數ヲ低減スルコト、二、選舉運動ノ爲メ使用スル勞務者ニ關シ新ニ制限ヲ設ケルコト、三、選舉事務所ヲ議員候補者一人ニ付キ一箇所ニ限定スルコト、四、法定ノ選舉運動者ニ非ザル所謂第三者ハ、議員候補者又ハ選舉事務長ノ文書ニ依ル承諾ヲ得テ選舉演說會ニ出演スル外、一切選舉運動ヲ爲スコトヲ得ナイコトスルコト、五、右ニ述ベマシタ選舉運動ノ制限ニ伴ヒ、選舉運動費用ニスル法定制限額ヲ低下スルコト

トヲ得ルノデアリマスガ、此制限額ハ前回ノ改正案ニ於キマシテハ大體七千五百圓程度デアリマシタガ、今回ハ選舉公營ヲ行ヒマスル關係モアリマシテ、之ヲ六千圓程度ニ低下スルコトニ致シマシタ、六、此外費用制限ノ趣意ヲ一層徹底スル爲メ、選舉ノ期日後選舉人ニ挨拶スル目的ヲ以テ爲ス行爲ニ關シ、内務省令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設ケ得ルコトスルコト、第三ハ、選舉犯罪ヲ防止スル爲メ、罰則ノ改正ヲ行フコトデアリマシテ、即チ一、買収犯罪ニ對スル刑罰ハ一般的ニ之ヲ加重シ、殊ニ所謂選舉「ブローカー」ニ付キ新ニ規定ヲ設ケ、之ニ對シテハ極メテ重イ體刑ノミヲ科スルコトトシ、尙又買収犯罪ノ時効完成期間ヲ延長スルコト、二、選舉犯罪者ニ對スル罰格ノ制裁ヲ嚴重ニシ、例ヘバ買収犯罪ノ再犯以上ノ者ニ對シテハ、十年、十五年ノ長期間ニ互ツテ選舉權又ハ被選舉權ヲ失ハシメ、且ツ情狀ニ依リ裁判所ガ罰格ノ制裁ヲ緩和スルニ付テモ制限ヲ加ヘルコト、三、選舉運動者ガ選舉犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル時ハ、當該議員候補者ノ當選ヲ無効トスルノ制度、即チ所謂候補者連坐ノ制度ヲ擴張シ、選舉事務長ガ買収犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ、當然ニ當該候補者ノ當選ヲ無効トスルコト共ニ、選舉事務長ニ非ズシテ事實上ノ選舉運動ヲ主宰シタル者ガ、買収犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル場合ニ於テモ、當該候補者ノ當選ヲ無効トスルコト、第四ハ、官公吏ニ依ル所謂選舉干涉ノ弊ヲ防止スル爲

メ、官公吏ノ選舉犯罪ニ對スル刑罰ヲ一般的ニ加重シ、殊ニ選舉事務ニ關係アル官公吏又ハ警察官吏ノ買収犯罪ニ付テハ、新ニ規定ヲ設ケテ之ヲ嚴罰スルコトトシ、又官公吏ノ選舉犯罪ニ付テハ、其時効完成期間ヲ延長スル等、必要ナル規定ノ改正ヲ行フコト、以上ガ前回ノ改正案中ニ含マレタル主要ナ項目デアリマスガ、是等ハ大體其儘今回モ採用イタシマスト共ニ、今回ノ改正案ニ於テハ、更ニ或範圍ニ於テ、所謂選舉公營ノ主義ヲ採用シ、之ニ必要ナル規定ヲ設ケタノデアリマス、所謂選舉公營ニ付キマシテハ、昭和七年法制審議會ヨリ答申ノ次第モアリ、政府ハ之ニ付キ慎重考究ヲ重ネタノデアリマスガ、法制審議會參考案ニ示サレタルガ如キ、徹底シタル選舉公營ヲ行フコトハナカク困難デアルト認メマス、唯併シ、其或モノハ實行上ノ困難モ少ク、且ツ選舉運動費用ノ減少ノ趣意ヨリ見テ、又選舉運動ニ於ケル機會均等ヲ實現スル意味合ニ於テ、相當有意義デアルト認メラレマスノデ、之ヲ今回ノ改正案中ニ採用スルコトト致シタノデアリマス、即チ第一ニ、法第四百十條第二項ノ、公ノ營造物ノ設備ニ於テ開催スル演說會ニ付テハ、當該營造物ノ管理者ニ於テ其會場施設ヲ爲スコトトシ、第二ニ地方長官ハ議員候補者ノ政見等ヲ掲載シタル文書、即チ選舉公報トモ稱スベキモノヲ發行スルコトト致シ、而シテ演說會場ノ施設ニ付テハ候補者ノ私營ヲ別段禁止イタシマセマスガ、選舉文書ニ付キ

マシテハ公營ノ半面トシテ、一回ノ無料郵便物及演說會告知ノ爲ニスル文書ノ外、總テ其私的頒布ヲ禁止シ、之ガ違反ニ對シマシテハ、相當嚴重ナル制裁ヲ以テ臨ムコトト致シマス、尙ホ公營ニ付テノ細目ハ勅令ヲ以テ定ムルコトト致シテ居リマス、最後ニ今回ノ改正案ニ於テハ、近時通信機關ノ整ヒマシタル、北海道廳根室支廳管内色丹郡ニ選舉法ヲ施行スルコトニ致シマシタ、以上申述ベマシタ所ガ、今回ノ改正法律案ノ要旨デアリマス、是等ノ諸項目ハ選舉ノ自由公正ヲ圖ル上ニ於テ、有效適切ナル手段デアリ、今日ノ社會ノ要望ニモ副フモノデアルコトヲ信ジ、次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行イタシタイト考ヘマシテ、政府ハ本案ヲ提出イタシタル次第デアリマス、本案ニ對シマシテハ衆議院ニ於テハ數箇ノ修正ガ加ヘラレタノデアリマス、第一ハ選舉ノ方法ニ關スル修正デアリマシテ、即チ政府原案ニ於キマシテハ開票手續ニ付テ、所謂混同開票ノ主義ヲ採用シテ居リマス、之ヲ現行法通り投票區別開票ノ主義ニ還ヘマスト云フ修正デアリマス、第二ハ選舉運動ニ關スル修正デアリマスガ、是ハ更ニ數項ノ項目ヲ含ンデ居ルノデアリマス、第一ハ選舉委員ノ制限數ヲ、原案ニ於テハ其異動ノアル場合ト雖モ、通ジテ三十人ヲ超ユルコトヲ得ナイコトニナッテ居リマスノヲ、此度ハ五十名ニ増加スルコト、其二ハ選舉運動ノ爲ニ使用スル勞務者ニ關スル制限ニ付テ、其制限數ヲ一日二十人ヨリ、一日三十人ニ増加

スルト共ニ、議員候補者ト同居スル親族、家族及常備ノ使用人ニ付テハ特例ヲ認メルコト、其三ハ選舉事務所ノ制限數ヲ一箇所ヨリ三箇所ニ増加スルコト、其四ハ所謂第三者ノ選舉運動ノ制限ニ關シ、原案ニ於テ認メタル選舉運動ノ外、更ニ政事上ノ結社ハ或範圍ニ於テ所屬ノ議員候補者ノ爲メ、選舉運動ヲ爲シ得ルノ途ヲ存シテ置クコト、其五ハ選舉演說會ニ出演シ得ベキ辯士ノ數ニ付キ新ニ制限規定ヲ設クルコト、其六ハ選舉運動費用ノ法定制限額ヲ、原案デハ六千圓程度ト爲シテ居ルモノヲ、此度ハ九千圓程度ニ引上グルコト、以上ガ選舉運動ニ關スル修正事項デアリマス、第三ハ罰則ニ關スル修正デアリマシテ、其一ハ所謂連坐制ニ關スル修正デアリマス、即チ選舉事務長ガ處刑セラレル場合ニ付テハ現行法通りノ除外規定ヲ復活スルト共ニ、今回新ニ加ヘマシタル事實上ニ於ケル選舉運動ノ主宰者ニ付テハ「事實上選舉運動ヲ主宰シタル者」ト云フ文言ヲ「事實上選舉事務長ノ事務ヲ執リタル者」ニ改メ且又議員候補者自身ニ於テ、其者ガ事實上選舉事務長ノ事務ヲ執リタルノ事實ヲ知ラズ、又ハ議員候補者ニ於テハ之ヲ制止シタルニ拘ラズ、其者ガ選舉事務長ノ事務ヲ執リタルノ事實アル場合ニ於テハ、議員候補者ハ當選ヲ失ハナイト云フ除外例ヲ設ケラレタノデアリマス、第二ハ選舉犯罪者ノ關格ノ制裁ニ關シ、原案ニ於テハ假令初犯者デアッテモ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ニ付テハ、被選舉權

ノ關格期間ヲ十年間ニ延長シテ居リマスガ、之ヲ現行法通りト爲スト共ニ、情狀ニ依リ裁判所ガ關格ノ制裁ヲ緩和スル點ニ付テモ、大體現行法ノ立前ヲ維持スルコトセラレタノデアリマス、尙又其關格ノ點ニ關聯シ、附則ニ一項ヲ加ヘ、買収犯罪ノ再犯以上ノ者ニ對スル關格期間ノ加重規定ハ、新法ノ下ニ於テ刑ニ處セラレタル者ニシテ、重ネテ刑ニ處セラレル者ニ限ッテ適用スルコトトセラレマシタ、其三ハ選舉犯罪ノ時效完成期間ヲ原案ニ於テハ犯罪ノ種類ニ依リ或程度從來ヨリ延長シテ居ルノデアリマスガ、此度ノハ總テ之ヲ現行法通りトセラレタノデアリマス、右様ノ次第デアリマスノデ、何卒適當ナル御審議アラムコトヲ希望イタシマス

○土方寧君 質問ヲ致シタウゴザイマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○土方寧君 極ク簡單デアリマスカラ此席カラ御許シテ願ヒマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○土方寧君 只今ノ御説明ノ終リノ方ニ、衆議院デ數種ノ點ニ於テ修正ガ加ヘラレタト云フコトヲ御報告ニナリマシタガ、政府ハ此修正ノ全部ニ御同意デアリマスカ、或モノハ同意、或モノハ同意デナイ、其衆議院ノ修正ノ全部或ハ一部分贊否ノ、政府ノ御意見ヲ伺ヒタイ

(國務大臣男爵山本達雄君演壇ニ登ル)

○國務大臣(男爵山本達雄君) 只今申述ベマシタ衆議院ノ修正案ハナカク多クニ互ッテ居リマシテ、ソレヲ通觀シテ見マスト云フト、全ク此政府ガ衆議院ノ選舉修正ヲ圖ル爲ニ作リマシタ其案デゴザイマスルガ、其趣旨ハ全ク沒却サレテ居ルヤウナ次第デアリマス、細目ニ至リマシテハソレハ又讓ルベキ所ハ讓ルコトガアリマセウガ、大體ニ於テハ到底同意ガ出來ナイ修正デアリマス、以上御答ヘ致シマス

○子爵池田政時君 只今議題ニナリマシタ衆議院議員選舉法中改正法律案ハ、極メテ重大ナル法案デアリマスガ故ニ、其特別委員ノ數ヲ二十五名トシ、議長ニ於テ指名セラレムコトヲ希望イタシマス

○子爵西大路吉光君 贊成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 池田子爵ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイモノト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

(小林書記官朗讀)

衆議院議員選舉法中改正法律案特別委員

候補佐佐木行忠君	候補松平康昌君
伯爵酒井忠正君	子爵前田利定君
子爵渡邊千冬君	子爵岡部長景君
織田萬君	男爵東久世秀雄君
松村眞一郎君	岡喜七郎君
伊澤多喜男君	川崎卓吉君
塚本清治君	山川端夫君

男爵黒田 長和君 男爵今國 國貞君
男爵矢吹 省三君 男爵伊江 朝助君

宮田 光雄君 馬場 鉄一君
古島 一雄君 高島 順作君

久米田新太郎君 濱口儀兵衛君
青木才次郎君

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第二乃至

第五ノ四案ハ、之ヲ一括シテ議題トナスコ
トニ御異議ゴザイマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイモ
ノト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 委員長松平康
昌君ノ御登壇ヲ促シマス

昭和九年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ
ル爲公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和九年三月十三日

委員長 侯爵松平 康昌
貴族院議長公爵近衛文麿殿

昭和七年法律第一號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和九年三月十三日

委員長 侯爵松平 康昌
貴族院議長公爵近衛文麿殿

滿洲事件ニ關スル一時賜金トシテ交付
スル公債發行ニ關スル法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和九年三月十三日

委員長 侯爵松平 康昌
貴族院議長公爵近衛文麿殿

大藏省預金部特別會計法中改正法律案
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及
報告候也

昭和九年三月十三日

委員長 侯爵松平 康昌
貴族院議長公爵近衛文麿殿

○侯爵松平康昌君 是ヨリ委員會ノ報告ヲ
〔侯爵松平康昌君演壇ニ登ル〕

致シマス、當委員會ハ日程第一、第三、第
四、第五、此四ツノ法律案ガ併託ニナツテ居
リマシテ、只今御話ノヤウニ一括シテ御報
告申上ゲルノガ便宜ト思ヒマスカラ、一括
シテ御報告ヲ申上ゲマス、委員會ノ結果ハ
過日御報告申上ゲマシタ通り、全部可決ス
ベキモノト認メタ次第ゴザイマス、是ヨ
リ其經過ニ付テ御報告申上ゲマス、法律案
ノ説明ハ此壇上ニ於キマシテ大臣カラゴザ
イマシタカラ重ネテ申上ゲマセヌガ、大體
ニ於キマシテ委員會デ説明ヲ致シマシタコ
トヲ申上ゲマスレバ、日程第二、第三、第
四、ハ公債發行ニ關スルモノデアリマシ
テ、第五ハ大藏省預金部特別會計法ノ條文
ノ改正デアリマス、昭和九年度一般會計歳

出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スルモノ
ハ、所謂赤字公債ニ關スルモノデアリマシ
テ、後ノ日程第三、第四ハ滿洲事件ニ關ス
ルモノデアリマス、ソレデ委員會ニ於キマ
シテハ、色々審議サレマシタノデアリマス
ガ、大體ニ於キマシテ、是ハ豫算ニ重大ナ
ル關係ガアリ、豫算ノ内容ノ一部ヲナスモ
ノデアリマスカラ、大體ニ於テ認ムベキモ
ノデアルト云フ態度ヲ以テ臨ンダト考ヘラ
レマス、ソレデ日程第二ノ方ニ於テ要求ス
ル額ハ六億六千九百九十萬圓、主トシテ審議サ
レマシタモノハ、赤字公債ト普通申シテ居
リマスモノノ意義、ソレカラ公債發行豫定
額、豫定總額、公債ノ市場ノ狀況即チ公債
ヲ發行シタ爲ニ市場ヲ壓迫スル程度トカ、
或ハ惡性ノ「インフレーション」ヲ招致スル
程度ガドウ云フモノデアアルカ、國民所得ト
公債引受、資金回收ノ見込ト云フヤウナコ
トニ付テ、主トシテ質疑應答ガアリマシ
タ、尙ホ其外ニ公債發行ノ時期トカ、繰越
或ハ公債借換ノ件、サウ云フヤウナ問題ガ
ゴザイマシテ、政府ハソレノ答辯イタシ
マシタ、殊ニ借換ト云フヤウナコトニ關シ
テハ、「オーブン・マーケット・オペレーショ
ン」ト云フコトニ付テ、可ナリ詳シク説明
ガアリマシタ、サウ云フ研究ノ下ニ、之ヲ
先程申上ゲマシタ通り委員會ハ可決イタシ
マシタケレドモ、其際ニ於キマシテ公債ト
云フモノハ、何時マデモ公債ト云フモノニ
賴ルト云フコトハ、或ハ財政上ノ基礎ヲ危
クスルト云フヤウナコトガアリハシナイ

カ、サウ云フコトガアツテハイケナイカラ、
一日モ早く財政ノ根本的計畫ヲ確立スルヤ
ウニト云フ強イ御意見ガ出タコトヲ御報告
申上ゲテ置キマス、ソレカラ滿洲事件ニ關
スルモノノ内、昭和七年法律第一號中改正
法律案ノ方ハ、既ニ昭和七年法律第一號ト
云フモノデ、滿洲事變ノ經費ヲ支辨スル法
律ガ出テ居リマス、ケレドモ其法律デ認メ
テ居リマス高ガ四億九千九百萬圓ト云フコ
トニナツテ居リマスガ、其後ノ事情ノ變化ニ
依リマシテ、今少シ不足ガ出マシタノデ、
ソレヲ補フ其目的ノ爲ノ改正デアリマス、
此度要求シテ居リマスモノハ六億五千十萬
圓ト云フコトニナリマス、其高ヲ左様ニ變
更シヤウト云フモノデアリマシテ、是ハ大
シタ異論モナク可決サレマシタ、其次ノモ
ノハ、所謂行賞賜金ニ關スルモノデアリマ
シテ、一時賜金トシテ現金デ交付スルモノ
ノ外、交付公債ノ形式ニ於テ交付スルモノ
ノ、ソレノ財源ニ要スル爲ノモノデアリマ
ス、ソレデソレノ必要トスル所ハ四千八百
七十萬圓ト云フコトデアリマスガ、其數デ
ハ半端デアアルカラ、五千萬圓ト云フ風ニ規
定シタイ、斯ウ云フコトデアリマシタ、此事ニ
付キマシテハ、其趣意ニ付テハ反對ハ殆ド
何モナイノデアリマスガ、少シク之ニハ、
質問ガアリマシテ、ソレハ即チ軍人軍屬ノ
方ニ以外ニ、所謂銃後ノ人ミト云フモノニ
對シテ、ドウ云フ風ニ考ヘテ居ルノカト云
フ問題デアリマシテ、ソレノ代表ト致シマ
シテ、滿鐵ガ其問題ニナリマシテ、滿鐵社

員或ハ滿鐵從業員、サウ云フモノニ對シテ此行賞範圍ガ、ドウ云フ風ニナツテ居ルノカト云フ質問ガ出タノデアリマスガ、陸軍ノ當局ニ於キマシテモ、社員及從業員共ニ其行賞範圍ニ入レテ居ル、サウシテ軍人軍屬トノ均衡モ十分考ヘテ居ルト云フコトデアリマシタ、但シ其家族ト云フヤウナモノニ對シテハ、是ハ行賞ノ範圍ノ外デアルカラ、各、其主務省ナリ、或ハ會社ナリガ、救済ト云フヤウナ意味デ考慮シテ然ルベキモノデアラウト思フ、サウ云フヤウナ御意見ガアリマシタ、尙ホ詳シクハ速記ニ載ツテ居リマスガ、滿鐵社員ノ死傷者ノ數ト云フヤウナコトモ質問ニ出マシテ、答辯ガアリマシタ、從業員ノ方ハマダハッキリ分ラスト云フコトデアリマス、先程モ申上ゲマシタ通り、是ハ可決スベキモノト認メタノデゴザイマスガ、尙ホ其時ニ御意見ガ出マシテ、斯ウ云フ風ニ此度ノ事件ハ重大ナモノデア

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ各案ノ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 西大路君ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 四案ノ第二讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ全部ヲ問題ニ供シマス、各案全部、委員長ノ報告通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○子爵西大路吉光君 直ニ各案ノ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵植村家治君 贊成

○副議長(伯爵松平賴壽君) 西大路君ノ動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 四案ノ第三讀會ヲ開キマス、各案ヲ問題ニ供シマス、各案共第二讀會ノ決議通りデ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 日程第六、結核豫防國策樹立ニ關スル建議案、金杉英五郎君發議、會議、金杉君ノ御登壇ヲ望ミマス

結核豫防國策樹立ニ關スル建議案

右貴族院規則第六十九條ニ依リ提出候也
昭和九年三月十四日

發議者 金杉英五郎

贊成者

公爵一條 實孝

侯爵大久保利武

伯爵松本 宗隆

伯爵兒玉 秀雄

伯爵二荒 芳德

伯爵酒井 忠正

子爵青木 信光

子爵井上匡四郎

子爵會我 祐邦

子爵井伊 直方

子爵大河内輝耕

子爵岡部 長景

子爵西尾 忠方

子爵米倉 昌達

子爵松平 康春

富谷銆太郎

眞野 文二

男爵四條 隆英

太田 政弘

公爵鷹司 信輔

侯爵佐佐木行忠

伯爵柳澤 保惠

伯爵小笠原長幹

伯爵黒木 三三

伯爵橋本 實斐

子爵前田 利定

子爵渡邊 千冬

子爵池田 政時

子爵秋月 種英

子爵保科 正昭

子爵三宅敬光

子爵裏松 友光

子爵實吉 純郎

子爵三島 通陽

大島 健一

松浦鎮次郎

上山滿之進

山川 端夫

結核豫防國策樹立ニ關スル建議

政府ハ結核豫防國策ヲ樹立シ速ニ結核豫防施設ヲ擴充シ以テ結核豫防ノ實效ヲ擧ケラレンコトヲ望ム

右建議ス

〔金杉英五郎君演壇ニ登ル〕

○金杉英五郎君 結核豫防國策樹立ニ關スル建議案ニ付キマシテ、簡單ニ其理由ヲ申述ベマス、私ハ去ヌル二月十九日、結核豫防國策ニ付テ内務大臣ニ御質問申上ゲ、又陸軍大臣、海軍大臣ノ御聽キニモ達シマシタ次第デアリマシテ、其節内務大臣ヨリ誠意アル御答辯ニ接シマシテ、ソレデ満足イタシテ居ルベキ筈デアリマスルガ、此質問ハ單ニ一立法部員ト監督官廳ノ質問應答ニ止マルモノデアリマシテ、是非トモ是ハ廟堂ノ議ニ付セナケレバナラヌ重大ノ問題デアルト信ジマスル故ニ、更ニ建議案ヲ提出イタシマシタ次第デアリマス、私ハ醫學者デアアルガ爲ニ、屢、斯ノ如キコトヲ申出デルト云フ御考ヘモアリマセウケレドモ、

男爵小畑大太郎 男爵高木 喜寬
男爵松尾 義夫 男爵佐藤達次郎
阪本彰之助 山岡萬之助
川上 親晴 西野 元
八田 嘉明 馬場 鉄一
古島 一雄 内藤 久寛
田村 新吉 橋本辰二郎
岩田 宙造 大谷 尊由

是ハ大ナル間違ヒデアリマシテ、私ノ考ヘト致シマシテハ忠良ナル國民ノ一人トシテ、又立法部ノ一員トシテ、私ガ三十年來、不斷研究調査イタシ居リマスル關係上、默ニ付スベカラザルモノデアルト信シ居リマスル爲ニ、重ネテ建議案ヲ提出スルコトニ致シマシタル次第デアリマス、先般モ申上ゲマシタル通り、現今ノ本邦ニ於ケル結核蔓延ノ状態ハ實ニ著シキモノデアリマシテ、大正五年ニハ十一萬九千六百三十五人、大正六年ニハ十二萬千八百七十五人ノ死亡者ヲ出シテ居リマス、國民全死亡ノ一割強ヲ占メテ居ルヤウナ状態デアリマス、是ハ單ニ結核死亡トシテ居出デマシタルモノニ依リマスルノデアリマシテ、精細ニ之ヲ調べマスルト、少クモ其倍數ニハ達シテ居ルノデアリマス、例ヘバ肺結核患者トシテ死亡シタル者モ、肺炎トカ、氣管炎トカ云フ名義ニ依ッテ届出ルモノガ頗ル多イノデアリマシテ、又從ッテ常ニ存在スル所ノ患者ノ數ハ少クモ百五十萬人ニハ達シテ居ルト思ハルノデアリマス、而シテ日本ノ結核患者ハ、歐米諸國ノ結核患者ト稍、趣キヲ異ニシテ居リマシテ、國家ノ中堅タル壯年、少年ニ頗ル多イノデアリマス、其爲ニ國家ノ被ル災害ハ甚大ナルモノデアアルコトハ改メテ申ス必要ハアリマセス、爲ニ産業上、國防上、教育上被リマスル所ノ損害ハ舉ゲテ測ルベカラザルモノガアルノデアリマス、右様ノ状態デアリマスルカラ、結核蔓延ハ、國運ノ盛衰ニ重大ナル影響ヲ及ボスモノト

申サナケレバナリマセス、例ヘバ國防ニ付テ申シマスレバ、海軍ニ於キマシテハ、十五年間即チ大正六年カラ昭和六年迄ノ統計ニ依リマスルト、入營イタシマシタル將校竝ニ兵卒ニ付テ申シマスルト、平均四百二十六人肺結核ガ出テ居リマス、又肺結核以外ノ結核ガ二百五十九人デアリマス、平均合計イタシマスルト、六百八十五人ヅツ一年ニ出テ居ルノデアリマス、是ハ軍隊ニ入リマシタル者バカリデアリマシテ、モウ一ツ困ルコトニハ壯丁ノ徵兵検査ニ當リマシテ、年々歳々結核ノ爲ニ必要ナル軍務ヲ盡スコトノ出來ナイ者ガ非常ニ増シテ來ルノデアリマス、而シテ海軍ニ入營シタル者ノ患者ハ一年平均四萬九千八百九十九人デアリマス、其中六百八十五人ガ結核デアリマスルカラ、實ニ多數ニ上ボッテ居ルヤウナ次第デアリマス、實ニ國防上容易ナラザル事柄デアアルト信ズルノデアリマス、一方歐米諸國ニアリマシテハ、過去三十年間結核豫防ニ努メマスルコトガ實ニ目覺マシキモノデアリマシテ、今日ニ於キマシテハ既ニ其施設ヲ完備イタシ、從テ著々效果ヲ舉ゲテ居ルノデアリマス、今ヨリ三十四年前ハ我が日本帝國ノ結核患者ニ比較イタシマシテ、亞米利加アタリハ倍數デアリマシタルモノガ、今日デハ歐米諸國ガ略ボ二分ノ一、若クハ三分ノ一以下ニ達シテ居ルノデアリマス、是ハ申ス迄モナク歐米諸國ニ於キマシテハ、國防以上ニ結核豫防ノコトニ力ヲ致シマスル爲ニ現ハレタル所ノ效果デアリマ

シテ、比例ヲ以テ推シマスレバ、對策宜シキヲ得マスレバ、結核豫防ノコトナドハ決シテ難事デナイト云フコトヲ知ルノデアリマス、然ルニ本邦ニアリマシテハ、大正八年ニ既ニ結核豫防法ヲ施行イタシマシテ、大イニ其施設ニ力ヲ致サナケレバナラヌ時期ニナッテ居リマスルニモ拘ラズ、其施設ノ現況ハ極メテ貧弱デアリマシテ、此勢ヲ以テ進ンデ參リマシタナレバ、現時十二三萬ノ結核死亡者ハ、數年後ニハ二十萬ニ達スルト豫想シナケレバナラヌヤウナ狀況デアリマス、實ニ寒心ニ堪ヘザル次第デアリマス、何卒政府ハ今日大切ナル時期デアリマスルコトニ鑑ミラレテ、結核豫防撲滅ノ施設ニ十分ニ力ヲ致シマスルコトニ、遺漏ナキコトヲ望ム次第デアリマス、尙ホ一言申上ゲ置キマスルコトハ、私ノ申シマシタル數字等ニ付キマシテハ、柳澤伯爵ノヤウナ統計ノ權威者カラ見マスレバ、必ズ遺漏アルベキヲ豫想シテ居リマスルガ、大體ニ於テハ過チナキ積リデアリマス、ドウカ統計ノ權威者、柳澤伯爵ヨリ尙ホ詳シク統計ノコトナドヲ承リマスルト、今後ノ研究調査上非常ナ便宜ヲ得ル次第デアリマス、此點ハ豫メ御願ヒ申シ置キマスルカラデアリマス、右様ノ状態デアリマスルカラシテ、皆様ニ於キマシテモ此建議案ニ、是非共御賛成ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス、申上ゲル迄モナク建議案ハ之ガ御協賛ヲ經ルコトニナリマスレバ、所謂院議デアリマシテ、院議ノ建議案トナリマスレバ、内

務大臣一個ノ御考デナク、必ズ廟堂ノ議ニ付サナケレバナラヌ重大ナル事柄ト信ジマスル爲、何卒滿場御賛成アラムコトヲ伏シテ御願ヒ申ス次第デアリマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 通告ニ依リマシテ柳澤伯爵ニ發言ヲ御許シ致シマス、柳澤伯爵ノ御登壇ヲ望ミマス

(伯爵柳澤保惠君演壇ニ登ル)

○伯爵柳澤保惠君 私ハ十八九年前ヨリ、内務省ニ於キマスル保健衛生調査會ニ關係イタシマシタ因縁デ、國手大家……衛生方面、又醫學方面等ニ於ケル權威者ト接シマシテ、種々教ヲ受ケマシタ、尙ホ私ハ醫事統計ニ趣味ヲ持ッテ居リマスノデ、喜ンデ此案ニ賛成イタシタノデゴザイマス、御覽ノ通り此理由書ヲ見マスルト、「現今本邦ニ於ケル結核ノ蔓延著シク」、斯ウゴザイマス、私ハ建議ノ本文ニ付テハ異議ハナイノデアリスガ、此理由ニハ異議ガアルノデアリマス、ソレハ私ガ多年蒐メマシタ資料デ申上ゲマスガ、何レ今日持チマシタ三ツノ表ハ諸君ノ御許シヲ得マシテ、演記録ノ後ニ載セテ戴キマスカラシテ、此コトハ詳シク申上ゲマセス、唯私ハ日本ニ於キマシテ、人口動態ノ資料ヲ採リマシタ、始メノ明治三十二年カラ昭和六年ニ至ル迄、三十三箇年間ノ表ヲ持ッテ居リマス、是ハ自分ガ豫ネテ作ッテ置キマシタモノデ、是ハ「結核死亡果年比較」ト題シテ居リマス、ソレニ依リマス、結核ハ蔓延シテ居リマセス、明治三十二年ハ僅ニ萬分ノ十五餘デアリマシタ、

ソレガ少シク變テ參リマシタノデ、ソレヲ申上ゲマス、三十八年ニチヨット二十臺ニナリマシタ、ソレガ又四十一年以後ハ二十臺ニナリマシテ、大正七年ノ「スベイン」風邪ノ時ニハ二五・三、二三六ト云フヤウナ多數ニ上ボリマシタ、大正十三年後カラ十臺トナリマシタ、ソレ以後今日ニ至ッテ居リマス、是ハ先般金杉博士ガ本會議デ言ハレマシタガ、獨逸、亞米利加、其他ノ國ノ統計ハ確實ダガ、日本ノハ確實デナイト言ハレタガ、是程確實ナモノハナイノデアリマシテ、是ハ御承知ノ通り全ク死ンダ人ノ事實ガ載ッテ居ルノデアリマスカラシテ、之ニ駈引ハナイト思ヒマス、故ニ私ハ之ヲ見マシテ、ドウモ蔓延ト云フコトハ考ヘラレマセヌノデス、唯昭和六年迄デゴザイマスカラ、其後ノコトハ分リマセヌガ、恐ラクハ萬分ノ二十臺ニハナラヌノガラウト思ヒマス、シテ見レバ先ヅ今日ノ狀況デハ蔓延ト云フコトハ如何ナモノカト私ハ考ヘルノデアリマス、其外ニ私ハ資料ヲ持ッテ居リマス、ソレハ結核ニ依リマス死亡方他ノ病名中ニ盛込マレルト云フ事實ガアルノデアリマス、ドウ云フ病氣ニ盛込マレルカト申シマス、昭和七年十二月内閣訓令第二號ニ依ル死因及疾病分類中ノ中分類ト云フ中ニ氣管支炎、肺炎、肋膜炎ト云フノゴザイマス、即チ其中ニ結核性ノモノガ盛込マレルト云フ虞レガアルノミナラズ、是ハ事實デアルノデアリマス、是ハ新分類デアリマスルガ、舊分類ニ依リマス、

少シ文句ガ違ッテ居リマシテ、一ハ慢性氣管支炎、二ガ肺炎及氣管支肺炎、三ガ其他ノ呼吸器病患トアリマス、併シ是ハ前ニ申上ゲタヤウナモノニ改ッテデアリマス、此三ツノ病氣ノ中ニ結核性ノ病氣ガ盛込マレルト云フコトハ、是ハ如何ナル醫者デモ否定セラレヌノデアリマス、但シ此中ニドウ云フ割合デ結核性ノモノガ入ッテ居ルカト云フコトハ、是ハ分リマセヌカラ皆様ノ推定ニ俟ツヨリ外仕方ガナイノデアリマス、金杉博士ハ大凡ソ六、七割ノヤウニ言ハレテ居リマス、其證據ニハ昭和六年ノ結核患者ノ死亡ガ十二萬何ガシデアアルケレドモ、實際是ハ二十萬人位ナモノデアアラウト言ハレマス所ヲ見マス、盛込マレテ居ル所ノ結核性ノモノガ約六、七割アルト云フ御斷定ニナルノデアリマス、所ガ其盛込マレマス病氣ヲ見マス、是亦蔓延シテ居リマセヌ、私ハ大正十一年ヨリ昭和六年迄ニ付キマシテ、氣管支炎、肺炎、肋膜炎ニ付テ率ヲ採ッテ見マシタガ、是モ官報ニ載リマスカラ御覽ニナリマセウガ、一向殖エテ居リマセヌデ、寧ロ止ッテ居ル、或モノニ依ッテハ、少シ位殖エテ居リマスケレドモ、何レモ三ツノ病氣ハ今日迄、是レ以上ニ擴ッテ居ルコトニナラヌノデアリマス、故ニ之ヲ綜合シテ見マスト、結核ト云フモノハ左様ニ蔓延シテ居ラヌノデアリマス、寧ロ下火ニナッテ居ルト云フコトヲ私ハ申上ゲタイノデアリマス、發議者ハ二月十九日ノ本會議ニ於キマシテ、昭和六年中ノ日本ノ結核死亡ハ一萬

人ニ付キ一八・七、先ヅ十九人ト申サレマス、是ハ確カナ數字デアリマス、而シテ他ノ病名……只今申上ゲマシタ三ツノ病氣ノ中ニ結核性ノモノガ混ッテ居ル、先ヅ人口一萬ニ付キ二十二二人位ノモノガ確實ガラウト斯ウ言ハレテ居リマス、併ナガラ先刻申上ゲマシタガ、英、米、獨ノ統計ハ確カダガ、日本ノハ不確カデアルト斯ウ言ハレテ居ラレマスガ、是ハドウゾ御一考ヲ願ヒタイと思フノデアリマス、是ハ統計ノ罪デハナイ、醫者ノ罪デス、統計局デハ申告ニ基キマシテ統計調ヲシテ居ル、申告者ノ源ハ醫者ナンドス、是ガ貴族院ニ列シテ居ラレルヤウナ大家ナラ間違ヒハアリマスマイガ、併ナガラ病家ノ註文ニ依ッテ名前ヲ變ヘテ見タリ、或ハ誤診シタリシテ、結核ヲ他ノ病氣ニ盛込ムト云フコトハ隨分アリマス、是ガ役場ニ參リマシテ役場ノ小票ニ書イテ、是ガ中央ニ來ル、デスカラ、不確カノ源ハ醫者デアアル、其結果ガ昭和六年ノ人口一萬ニ對シテ一八・七即チ十九人ト云フコトニナル、故ニ斯ノ如ク論者ノ申サレマシタ十八、九人ノ者ガ本當デナクテ二十二人ニナルト云フ、其三、四人ノ差ハ是ハ數醫者ノ多イ證據デ、是ハ數醫者ノ罪ナンデス、決シテ是ハ統計局其他ノ統計機關ノ罪デハナイノデアリマス、ケレドモ私ハ斯様ナコトニ付テ議論ヲ致シマセヌ、外國デハ日本ノ率ニ近イ所ノ國モゴザイマス、又是レ以上ノ死亡率ヲ持ッテ居ル國モアリマス、ソレモ表ニ書イテ居リマス、日本以上ニ惡イ國ハ洪牙

利ト葡萄牙デアリマス、私ハ歐羅巴デ申シマス、ソレカラ日本ハ是ハ十九ト見テ居リマスカラ、段々近付イテ下ッテ居ル國ハ佛蘭西、諾威、奧太利、瑞西、西班牙、瑞典、伊太利、英吉利、白耳義、是ハ十六人カラ十人ニ至ル間デアリマス、人口一萬ニ付キ十臺デアリマス、ソレカラ一番良イノガ獨逸、和蘭、丁抹、濠洲、新西蘭デアリマス、是ガ八、八、七、五、四、非常ニ良イ數デアリマス、サウ云フ風ニナッテ居リマスケレドモ、以上ニ申上ゲマシタ良イ數ノ國ハ餘リ多クナイ、矢張り日本ニ近イ國ガ多イノデアリマス、多イノデアリマスケレドモ、是等ノ國ノ死亡率ハ先刻金杉博士ノ申サレル如クニ、前ニハ此倍モアツタモノガ減ッテ來テ、斯ウナッタノデアリマス、是カラ先ハ分リマセヌガ、先ヅ日本ノ死亡率ヨリ少シ良イ位ノ死亡率ニナッテ居ルノデアリマス、ソレデハ日本ノ狀態ガサウ云フ風デアラバ、サウ大シタ設備ヲスルトカ、大變金ヲ掛ケテヤルト云フコトハ無駄デハナイカト云フ御論ガ出マセウガ、私ハ左様ニ考ヘテ居リマセヌ、ト申スノハ我國デ一番多ク人ノ死ニマス病氣ハ何デアアルカト申シマスト、下痢及腸炎デアリマス、下痢及腸炎ハ今マデ色ミノ所デ調べマシテモ、是ハ決シテ下ニ落ちナイ、一番數ノ多イ病氣デアリマス、但シ肺結核ニ肺炎及氣管支肺炎ナドヲ加ヘマスト、是ガ恐ラクハ一番ニナルカモ知レマセヌ、ソレハ先程申上ゲマシタ病氣ノ中ニ盛込マレル結核ノ數ヲ推定シテ勘

定シテ出シマスレバ、或ハ下痢及腸炎ヨリ多イカモ存ジマセヌガ、兎ニ角、今日ノ統計ノ見ル所デハ下痢及腸炎ガ一番多イノデアリマス、此病氣ハ御承知ノ通りニ日本デハ乳兒及幼兒ニ甚ダ多イノデアリマス、此乳兒、幼兒ニ多イ所ノ下痢及腸炎ハナカナカ減少イタシマセヌ傾向ヲ呈シテ居リマス、斯ウ云フ病氣ガアリマシテ、之ニ對シテ、生レマス者ガ第一番ニ此難關ニ出會フテ此難關ヲヤット通り抜ケモノテ、安心シテ追々活動時期ニ達スルト、又其處デ酷イ目ニ遭フノデアリマス、ソレハ金杉博士モ申サレマシタ通り、青壯年ノ死亡ノコトデアリマス、即チ十五歳カラ二十五歳迄ノ青壯年ノ男女ガ結核ニ冒サレルノデアリマス、其上ニ前申上ゲマシタ所ノ三ツノ病氣ノ中ニモ盛込マレシマフノデアリマス、是ガ私が一番遺憾ニ思フノデアリマス、此年輪期ノ病氣モナカノ衰退イタシマセヌ、此損失ガドウ云フ影響ヲ與ヘルカト申スト只今金杉君ガ仰セラレタ通りデアリマス、此損失ヲ救ヒ出シマシテ多數ノ青壯年者ヲ十分ニ働カセタイト云フ一心ヨリ、私ハ此建議ニ賛成スル者デゴザイマス、之ヲ以テ私ノ賛成演説ヲ終リマス

○金杉英五郎君 申シマスレバ分リマス、御許シテ願ヒマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 説明ト心得テ宜シウゴザイマス、建議案ノ説明ト承知シテ宜シウゴザイマス

○金杉英五郎君 左様デゴザイマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○金杉英五郎君 只今柳澤伯爵ヨリ詳シク御討論ガアリマシタ、先ツ最初ニ結核ハ蔓延シテ居ラスト斷言ナサイマシタ、私ハ蔓延スルト申シタ、マルデ誇大ナル説ヲ爲シテ建議ヲシタト云フヤウナコトニ取ラレタノハ誠ニ迷惑デアル、確カニ結核ハ蔓延シテ居リマス、私ハ唯醫者ノ届出ノ統計バカリニ依ッテ見ルノデナク、海軍及陸軍ノ限局シタル場所ニ於テノ結核ノ蔓延ガ、一番確カナ證據デアルト思ヒマスルコトガ一つ、年々壯丁ノ検査ニ當リマシテ、失格者ノ増ス、即チ結核ノ爲ニ失格者ノ増スコトガ非常ニ多クナツテ來タト云フ、此事實ヨリ蔓延ヲ主張スル者デアリマス、多數ノ方ミノ誤解ヲ解キマスル爲ニ、一言申上ゲテ置ク次第デアリマス、而シテ丁度衛生局長モ見エラレテ居リマスルカラシテ、蔓延シテ居ラスカ、蔓延シテ居ルカト云フコトハ、當事者ガ一番確カニ御知リニナツテ居ルコトト存ジマスルカラ、此處デソレニ付テノ御説明ヲ煩ハシタイノデアリマス、前申シタル通り統計學者ハ兎角緻密ナルモノデアリマス、又事ニ依リマス、奇ヲ好ムヤウ

ナコトモアリマス、全然私ハ柳澤伯爵ノ蔓延シナイト斷言スルト云フコトニハ承服出來ナイト言フコトヲ斷言シテ置キマス

○伯爵柳澤保惠君 只今ノ金杉博士ノ御討論ニ對シテ一言申シテ宜シウゴザイマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 宜シウゴザイマス

○伯爵柳澤保惠君 私ハサッキ申上ゲタ通り、明治三十二年カラ昭和六年迄ノ傾向ヲ申シマシタ、其數字ハ確カナモノデアアルカラ、此比率モ確カデアル、是デ見ルト一向蔓延ノ微ガ見エナイト私ハ斷言シタ、併ナガラ後デ申上ゲタ通り青壯年ノ死亡ハナカナカ減ラナイ、デスカラ或年齢ノ人ヲ御覽ニナレバ非常ニ蔓延シテ居ルカモ知レマセヌ、私ハ全體ヲ見タノデアリマス、兎角、醫學者ハ小サナコトニ拘泥シテ全體ヲ御覽ニナラス、ドウゾ御注意ヲ願ヒタイト思ヒマス

(政府委員大島辰次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(大島辰次郎君) 只今金杉貴族院議員カラ御話ガアリマシタノデ、私カラ簡單ニ申上ゲタイト思ヒマス、只今詳シイ統計ノ數字ヲ手許ニ持ッテ居リマセヌノデアリマスガ、我國ニ於キマシテ結核ノ死亡者ハ、只今ノ所毎年十二三萬近クゴザイマスノデアリマス、サウシテ先程柳澤伯爵カラ御示シガアリマシタ通り、其死亡ノ數ニ於キマシテハ、死亡原因中第二位ヲ占メテ居ルヤウナ次第デアリマス、若シソレニ、慢性氣管支炎デアリマス、肺炎トカト云フモノノ中ニ含ンデ居ルノデハナカラウカト思ヒマスル所ノ結核ヲ加ヘマスナラバ、

私共ノ考ト致シマシテハ、我が國民ノ死亡原因中ノ第一位ヲ占メルノデハナイカト思フノデアリマス、我が國民ノ死亡原因ノ中、少ナクモ十二萬人以上ノ數ヲ數ヘマスルト云フコトハ、是ハ我國ニ於キマシテ、結核ガ蔓延シテ居ルト云フコトヲ申シテ宜シイカト思フノデアリマス、唯先程ノ御言葉デアリマシタガ、蔓延ノ狀況ガ年々漸次増加シテ居ルカドウカト云フヤウニ御取リニナツタノデハナイカト思フノデアリマスガ、其蔓延ノ狀況ハ只今ノ所漸次増加シテ居ルト云フヤウナ狀況デアリマセヌ、減ッテモ居リマセヌガ殖エテモ居リマセヌト云フヤウナ狀況デアルノデアリマス(笑聲)ソレデアリマスノデ、結核ノ豫防ノ問題ハ、私共トシマシテモ非常ニ重要ナ問題デアルト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○副議長(伯爵松平賴壽君) 只今柳澤伯爵ヨリ御要求ガゴザイマシタ表ヲ速記録ニ登載スルコトニ御異存ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 御異議ナイト認メマス、是ヨリ採決ヲ致シマス、本案ニ同意ノ諸君ノ御起立ヲ願ヒタウゴザイマス

(起立者多數)

○副議長(伯爵松平賴壽君) 過半数ト認メマス、本日ノ議事ハ是ニテ終リマシタ、次會ノ議事日程ハ決定次第、本院彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日は是ニテ散會イタシマス

午前十一時四十一分散會

(參照)

質問資料(伯爵柳澤保惠君演説ニ關スルモノ)

結核死亡累年比較

第一表

	實 數					現在人口一萬ニ付				
	肺結核	結核	性炎	腸結核	他臓器ノ結核	肺結核	結核	性炎	腸結核	他臓器ノ結核
明治三十三年	55,938	2,751	8,416	494	67,599	12.6	0.6	1.9	0.1	15.2
三十四年	59,525	3,176	8,426	614	71,771	13.3	0.7	1.9	0.1	16.0
三十五年	62,002	3,444	10,243	925	76,614	13.7	0.8	2.2	0.2	16.9
三十六年	65,993	4,016	11,507	1,043	82,559	14.3	0.9	2.5	0.2	17.9
三十七年	67,722	4,286	12,092	1,032	85,132	14.5	0.9	2.6	0.2	18.2
三十八年	69,107	4,383	12,516	1,251	87,260	14.7	0.9	2.7	0.3	18.6
三十九年	76,031	4,716	14,008	1,245	96,030	16.0	1.0	2.9	0.3	20.2
四十年	75,460	5,031	14,250	1,319	96,069	15.7	1.0	2.9	0.3	19.9
四十一年	75,544	5,614	14,033	1,393	96,584	15.5	1.1	2.9	0.3	19.8
四十二年	76,589	6,103	14,675	1,504	98,871	15.5	1.2	3.0	0.3	20.0
四十三年	82,623	6,394	10,240	14,365	113,622	16.6	1.3	2.0	2.9	22.8
四十四年	82,652	6,154	9,736	14,661	113,203	16.4	1.2	1.9	2.9	22.4
四十五年	80,766	6,242	19,014	4,700	110,722	15.7	1.2	3.7	0.9	21.5
四十六年	82,048	6,069	19,118	6,962	114,197	15.7	1.2	3.7	1.3	21.9
四十七年	80,233	5,933	17,928	6,659	110,753	15.2	1.1	3.4	1.3	21.0
四十八年	81,414	6,481	18,607	6,839	113,341	15.2	1.2	3.5	1.3	21.2
四十九年	83,254	6,519	19,137	7,003	115,913	15.3	1.2	3.5	1.3	21.3
五十年	86,633	6,924	20,873	7,380	121,810	15.7	1.3	3.8	1.3	22.1
五十一年	87,952	6,814	22,679	7,342	124,787	15.7	1.2	4.0	1.3	22.2
五十二年	99,215	7,217	26,623	7,692	140,747	17.8	1.3	4.8	1.4	25.3
五十三年	93,117	7,335	25,323	6,790	132,565	16.6	1.3	4.5	1.2	23.6
五十四年	87,102	6,906	24,508	6,649	125,165	15.6	1.2	4.4	1.2	22.4
五十五年	82,903	6,888	24,200	6,728	120,719	14.6	1.2	4.3	1.2	21.3
五十六年	85,515	6,956	26,124	6,911	125,506	14.8	1.2	4.5	1.2	21.8
五十七年	81,547	5,348	25,530	5,791	118,216	13.9	0.9	4.4	1.0	20.2
五十八年	79,410	5,320	23,750	5,749	114,229	13.4	0.9	4.0	1.0	19.3
五十九年	81,546	5,531	23,337	5,482	115,956	13.7	0.9	3.9	0.9	19.4
六十年	80,330	5,376	22,303	5,036	113,045	13.3	0.9	3.7	0.8	18.7
六十一年	85,502	5,723	22,863	5,346	119,439	13.9	0.9	3.7	0.9	19.5
六十二年	85,878	5,701	22,643	5,410	119,632	13.8	0.9	3.6	0.9	19.3
六十三年	88,440	6,239	23,384	5,427	123,490	14.1	1.0	3.7	0.9	19.6
六十四年	86,082	5,847	22,302	5,404	119,635	13.4	0.9	3.5	0.8	18.6
六十五年	89,192	6,076	21,162	5,445	121,875	13.6	0.9	3.2	0.8	18.6

慢性氣管支炎・肺炎及氣管支肺炎・肋膜炎累年比較
(現在人口一萬ニ付)

第二表

	慢性氣管支炎	肺炎及氣管支肺炎	肋膜炎
大正十一年	5.6	19.5	2.8
大正十二年	3.1	20.4	2.8
大正十三年	3.0	20.9	2.8
大正十四年	2.8	21.6	2.7
大正十五年	2.4	17.9	2.5
大正十六年	2.5	19.6	2.6
大正十七年	2.4	20.3	2.6
大正十八年	2.4	19.3	2.7
大正十九年	2.1	15.7	2.6
大正二十年	2.3	19.8	2.7

備考 病名ハ舊分類ニヨル

結核死亡對比表

第三表

國 名	調 査 年	人 口 數 (單位萬)	結 核 數	人口萬ニ付 (四捨五入)
洪 牙 利	昭 和 五 年	8.68	18,839	22
葡 萄 牙	昭 和 五 年	6.70	13,613	20
日 本	昭 和 五 年	64.45	121,875	19
佛 蘭 德	昭 和 三 年	41.83	67,679	16
瑞 士	昭 和 三 年	2.81	4,387	16
瑞 士	昭 和 三 年	6.73	10,046	15
瑞 士	昭 和 四 年	4.06	5,340	13
瑞 士	昭 和 四 年	23.56	30,831	13
瑞 士	昭 和 四 年	6.16	7,947	13
瑞 士	昭 和 四 年	41.17	50,169	12
瑞 士	昭 和 四 年	39.94	37,990	10
瑞 士	昭 和 四 年	8.09	7,764	10
瑞 士	昭 和 四 年	65.60	55,672	8
瑞 士	昭 和 四 年	7.93	6,639	8
瑞 士	昭 和 四 年	3.55	2,595	7
瑞 士	昭 和 四 年	6.55	3,464	5
瑞 士	昭 和 四 年	1.45	642	4

備考 人口ハ國勢調査ノ結果又ハ推計數ニ依ル(月日畧)